

## ②劇「南風Ⅱ」台本

### 《CAST》

アキ……………KE  
アキ妹……………YA  
アキ曾祖母……………AM  
ケイタ……………HY  
ケイタ父……………TY  
ケイタ母……………MM  
ケイタ祖父今……………ST  
ケイタ祖父昔……………KJ  
ケイタ祖母……………KC  
ケイタ曾祖父今……………YA  
ケイタ曾祖父昔……………MD  
ケイタ曾祖母……………TM  
村人①……………YY  
村人②……………SR  
村長……………SR  
捕虜①……………YH  
捕虜②……………SK  
ソ連兵……………HA  
移民60①……………NS

移民35②……………NM  
移民10③……………KY  
中友指導員……………YH  
中友同級生①……………NM  
中友同級生②……………SK  
中友同級生③・タケル……………FT  
サッカー仲間①……………TR  
サッカー仲間②……………HY

### 《STAFF》

演 出……………ST, TS  
MT, KK  
KA  
照 明……………NR, HA  
MY  
音 響……………SM, NM  
映像・特殊編集……………TY, MN  
YN

### シーン①「空襲とランドセル〜」

#### 《アキ曾祖母宅》

ナレーション・アキ曾祖母 ひいじいちゃんのお父さんが土手に来ることはなかったんやと。これが、徳島大空襲。七月三日の夜、約二時間ほどの焼夷弾による爆撃で、約千人の死者が出た。ひいじいちゃんのお父さんも、ほのうちの一人。土手で父さんを待ち続けた母さんとユミさんは、一睡もできなまま、夜明けを待って、家を見に行ったら、家の梁の下敷きになった父さんを見つけたんやって。ほなけど、手には焼け焦げたランドセルをちゃんと握りしめとったって。ユミさんは、ずーっと、「父さんが亡くなったんは私のせいじゃ」って。「私が父さんを殺したようなもんじゃ」って言いながら、亡くなってもう…十年になるかなあ…。けど母さんは、「父さんはマサルの所に行けてよかった」って言ったなあ。

アキ妹・エツコ (泣きながら)戦争ってイヤやなあ。

アキ (泣きながら)ほんで、ひいじいちゃんはどうなったん？

アキ曾祖母 そうそう、ひいじいちゃんは、志願兵に志願して、広島に送られたんよ。

アキ ほんで、ひいばあちゃんに会うたんじゃ。

アキ曾祖母 そう。徳島大空襲の次の月の八月、ヒロシマには、あのピカが落とされただろ。

アキ ピカって、原爆？

アキ曾祖母 そう。

アキ妹・エツコ あの、「はだしのゲン」の？

アキ曾祖母 そう。あのピカで、ひいばあ家族は、みんな死んだんよ。

アキ・エツコ ウソー！

アキ曾祖母 ウソでない。私はたまたま広島市内から離れとったけん、ピカにやられんと、けが人や病人の看護をしようたんよ。ほこで、ひいじいちゃんに会うたん。終戦になってからも、ひいじいちゃんやおるうちにな、一緒に徳島に来ることになったんよ。ひいばあは、もうヒロシマに身寄りもなくなったけんあ…。

アキ ひいばあちゃん、何か私…すごいショック！戦争が自分にこなあに関わりがあったや、思いもよらんかった。何か…嬉しいわけでないのに、まだ胸がドキドキしよう。ひいばあちゃん、私、おかしいんかえ？！

アキ曾祖母 ほんなことないよ。ほんだけ、心で分かったっていうことちゃうで。

アキ 戦争って、たくさんのおくさんの、たーくさんの人の思いが、ホンマにいっばい詰まるとるんじゃ。ほれがギリギリのところであつながつて、今の私がおるんよなあ。どこかで途切れてしもうとつたら、今の私はおらんかったんよなあ。ほう思うたら…私、戦争や平和のこと、もっと考えなアカンわ。考えなバチが当たる。マサルさんやマモルさん、ひいじいちゃんのお父さんやユミさんに、申し訳ないような気がする！

アキ曾祖母 うん、うん。

アキ 私、ちょっと家帰る！この思い、伝えたい人がおるけん！ひいばあちゃん、ありがとうー！

アキ妹・エツコ あっ！姉ちゃん！ちょっと待ってー！

## シーン② 「ケイタ・ルーツ」

《それぞれの部屋》

(ケータイメール呼び出し音)

ケイタ ん？メール。アキちゃんからだ。

アキ 「さっき、ひいばあちゃんから戦争のこと聞いたよ。実は私のひいばあちゃんヒロシマ出身で、原爆で家族みんな亡くなつてたんだつて。全然知らなかつた。ひいじいちゃんの兄さん二人も戦死してた。それに、ひいじいちゃんのお父さんは空襲でなくなつてた。徳島でも大空襲があつたんだつて。私、今ひいばあちゃんからその話聞いて、すごいショック。そんなこと全然知らなかつたんだもん」

ケイタ 「へえ～、そうなんだ。じゃあ、修学旅行でヒロシマに行くのつて、ある意味里帰りじゃん！」

アキ 「つていつても、ひいばあちゃんにすれば、もう身寄りもないらしいから…」

ケイタ 「それに、昔と今じゃ町も変わつてるかな」

アキ 「だろうね…」

ケイタ 「けど、ヒロシマはアキのルーツつていうことになるね」

アキ 「ルーツつて？」

ケイタ 「うーん、『たどつていつた元』つていうことかな」

アキ 「そうそう！全然他人ごとじゃなかつた！修学旅行でヒロシマに行くのを嫌がつてた自分が、ちょっと恥づかしい」

ケイタ 「オレも。嫌がつてたけど、やっぱ何か違う気がしてきた」

アキ 「何か、真剣に原爆やヒロシマのこと、戦争のことを知りたくなつてきた」

ケイタ 「うん。案外戦争つて、身近なところにあるんだ」

アキ 「みたいだね」

ケイタ 「今度はオレの番だ」

アキ 「何が？」

ケイタ 「今度はオレが家の人に戦争のことを聞いてみる」

アキ 「うん。何かあるかなー？」

ケイタ 「分かんない。今までそんなの話したことないから。何か楽しみだけど、怖い気分」

アキ 「私は…楽しみかな。あまりイイ言い方じゃないかもしれないけど」

ケイタ 「人の不幸を楽しみつて言うのは良くないでしょうー」

アキ 「そういうんじゃないで、ケイタの知らなかつたことが知れるつていうことが楽しみつてこと！」

ケイタ 「何だよそれー！」

## シーン③ 「里帰り」

《ケイタ自宅》

ケイタ 父さん…うちって、戦争と何か関わりある？  
ケイタ父 なんだ、いきなり。  
ケイタ いや、ちょっと興味あって。  
ケイタ父 うん…戦争っていっても、いろいろあるからなー。  
ケイタ 例えば第二次世界大戦とか…。  
ケイタ父 (笑)第二次世界大戦って…父さんだって戦後生まれなんだぞー。  
ケイタ母 戦争？戦争のことなら、うちのおじいちゃんに聞いてごらんさいよ。  
ケイタ おじいちゃんて…母さんの父さん？  
ケイタ母 そう。長野のおじいちゃんよ。  
ケイタ父 そういえば、いつやら長野のお父さんは、満州から引き揚げてきたとか言ってたなー。  
ケイタ 満州って？  
ケイタ母 満州っていうのはね、第二次世界大戦のときに日本が中国を侵略して建てた国の名前よ。  
ケイタ そういや歴史で習ったような…。  
ケイタ母 詳しいことは母さんもよく知らないけど、長野のおじいちゃんは、ひいおばあちゃんに連れられて、中国大陸から引き揚げて帰ってきたらしいわよ。  
ケイタ よく知らないって、どうして？  
ケイタ母 どうしてって…おじいちゃんがしゃべりたがらないんだもん。  
ケイタ なんで？  
ケイタ母 なんてって言われても…じゃあケイタ、来週おじいちゃんところに、一緒に行く？  
ケイタ 来週って、急じゃない？  
ケイタ父 いやな、来週の日曜日に、ひいおばあちゃんの法事があるんだよ。  
ケイタ えー！オレそんなの聞いてないよー！  
ケイタ父 いや、どうせお前はサッカーがあるだろうからって、言ってなかったんだよ。  
ケイタ 言ってなかったって…じゃあ来週末はオレ、家で一人だったわけ？  
ケイタ父 まあ、そういうことだ。  
ケイタ うそ～！  
ケイタ父 もうお前も高校生なんだし、一日二日一人でいたって、何とかやっていけるだろうと思っ  
てさー。  
ケイタ いい加減だな～。  
ケイタ母 で、どうする？ケイタも行く？久しぶりに。  
ケイタ 実は来週の土日、サッカー休みなんだよ。  
ケイタ母 じゃあちょうどいいじゃない！  
ケイタ うん。  
ケイタ母 久しぶりね、家族三人で里帰りなんて！  
ケイタ父 そうだなー！(笑)

## シーン④ 「家族の歴史」

《ケイタ曾祖父今宅》

ナレーション・ケイタ 話の弾みから、なんと、オレも自分のルーツをたどるルールに、乗るハメになった。

長野にある母さんの実家には、子どもの頃よく行った。特に夏休みには一週間以上かけて滞在しては、山や川を走り回って、よく遊んだものだった。中学時代はサッカーで忙しく、土日もお盆もお正月もなかったから、久しぶりの里帰りになる。久しぶりに中央高速から眺める風景は、懐かしくもあり、嬉しくもあった。

法事を翌日に控えた夕食時に、母さんが切り出した。

ケイタ母 お父さん、ケイタがね、何か戦争のこと知りたがってるのよ。何かあったら言ってやってよ。

ケイタ おじいちゃん、何か知ってたら教えてよ。

ケイタ祖父今 戦争かー…うん…。

ケイタ母 どうしたのよ、急に…黙り込んでー。

ケイタ曾祖父今 (病床から起きあがってくる)戦争のことなら、ワシが話そうかのう。

ケイタ母 おじいちゃん！

ケイタ曾祖父今 ひいばあさんの法事にそんな話が出るのも、何かの縁じゃろう。もうワシも先は短い。せっかく集まったんじゃから、この機会にみんなに話しとこう。…ケイタは、八月十五日が何の日かは知っとるかの？

ケイタ 終戦記念日かなー？

ケイタ曾祖父今 そうじゃ。終戦記念日じゃ。第二次世界大戦と言え、沖繩やヒロシマ、ナガサキのことがよく言われ、あの日を境に平和がやってきたかのように思うとる者もおるが、決してそうじゃなかった。

ケイタ そうじゃないって？

ケイタ曾祖父今 (頭を振りながら)ワシらにとっては、それからが地獄だったんじゃ。

ケイタ母 おじいちゃんだけじゃなかったってこと？

ケイタ曾祖父今 ワシも、ひいばあさんも、お前のお父さんもじゃ。

ケイタ母 お父さんも？

ナレーション・ケイタ曾祖父今 昭和になってすぐのころ、日本は中国東北部に、日本の面積の $\frac{6}{5}$ 倍にもなる満州国を作ったんじゃ。そして第二次世界大戦が終わる十年くらい前からは、「王道楽土」「五族協和」「夢の別天地」の謳い文句で、日本全国から約三十万人の農業従事者を集め、満蒙開拓移民団を送り込んだんじゃ。ひいじいやひいばあは、その中の一員だったわけじゃ。農業をすると言っても、誰の土地でもない場所を開墾するわけじゃなかった。先に住んでいた中国人を追い出し、満州国がワシらに入植させたんじゃ。そりゃあ、地元の中国人とうまくやれるはずはなかった。あの頃のワシらは騙されとったんじゃ。日本という国に…。

## シーン⑤ 「満州」

《満州の畑・曾祖父昔自宅》

(農作業しながら)

ケイタ曾祖父昔 今日も暑いのを。

村人① ほんまじゃのう。冬といたら零下四十度にもなるのに、夏といたらこの暑さじゃ。

村人② 前の冬なんぞ、山に木を切りに行とったたら、一緒に連れていった馬の鼻から出る息が、つららになとったわ。(笑)

ケイタ曾祖父昔 ワシの鼻にも、つららができとったわ。(笑)

村人① そういや、隣の日本人村に、また中国のヤツらが襲ってきたそうじゃねえか。

ケイタ曾祖父昔 で、どうなった？

村人① 金目の物は根こそぎ持ってかれたらしいわ。

ケイタ曾祖父昔 そうか…。じゃが良かったじゃねえか。命に別状なくって。

村人② そうだそうだ！

ナレーション・ケイタ曾祖父今 そしてあれは、昭和二十年の八月も終わりの頃じゃった。

(暗転後、再び農作業しながら)

村人② 最近、軍のヤツら、何かおかしくねえか。

ケイタ曾祖父昔 うん…話によると、車やトラックをかき集めてるっていう噂じゃ。

村人② 車なら軍隊さんも持つとるじゃろうに。

村人① (息せき切って走ってきながら)おーい！日本が負けたぞー！

ケイタ曾祖父昔・村人② なに？！

ケイタ曾祖父昔 そりゃあホントか？

村人① ああ。今日本から連絡が入った。十五日に降伏してたらしい。九日にはソ連が国境を越えてきてるそうだ。

ケイタ曾祖父昔 ソ連とは中立条約結んでたんじゃねえのか？

村人① こうなりゃ、もう条約も何もあつたもんじゃねえ。

村人② それで軍のヤツら逃げる準備してたのか！

ケイタ曾祖父昔 自分だけいいメシやがって…。

(村長登場)

村人① あっ、村長さん！

村長 おう、みんな、大変なことになったぞ。

村人② 日本が負けたそうじゃないですか。

村長 聞いておったか。

ケイタ曾祖父昔 これからどうなるんですか？

村長 今軍から連絡が入っての、ワシら男士はみんな、国境警備軍としてソ連を迎え撃つそうじや。

村人① そんなこと言ったって、もう日本は負けてるんでしょ？

村長 女子どもが避難するための時間稼ぎじゃよ。

村人② けど、もう車もトラックもありませんよ。それをどこに逃げろって言うんですか？

村長 ハルビンまで歩いて行く以外あるまい。とにかく、急いで準備じゃ。準備できた者から出発するぞ。

村人全員 …はい。

(ケイタ曾祖父昔の家)

ケイタ曾祖父昔 おい！みんな、急いで家を出る準備をするんだ！

ケイタ曾祖母 いったい急にどうしたんですか？

ケイタ曾祖父昔 日本が負けた。ここも危ない。ソ連が入ってきてるらしい。

ケイタ曾祖母 家を出てどこに？

ケイタ曾祖父昔 とりあえず、年寄りや女子どもはハルビンだ。

ケイタ曾祖母 じゃあ、あなたは？

ケイタ曾祖父昔 ワシら男士は、警備軍として国境に残るらしい。

ケイタ曾祖母 じゃあ、私と子どもたちだけで？

ケイタ曾祖父昔 そうじゃ。

ケイタ曾祖母 あなたは？

ケイタ曾祖父昔 …子どもたちのこと、頼んだぞ。

ケイタ曾祖母 ……。

ナレーション・ケイタ曾祖父今 こうして、ワシとひいばあさんや子どもたちは離れ離れになってしまった。もう戦争は終わったはずじゃったのに…。ワシらにすれば、それからが地獄の始まりじゃったんじゃ。

## シーン⑥ 「遙かシベリアへ」

《貨物列車》

村人① 警備軍と言ったって、結局ソ連に捕まっただけじゃねえか。

村人② 武器は全部持ってかれるし…。

ケイタ曾祖父昔 これからワシらどうなるんかのう？おっ、他の村の連中も集まってきたぞ。

村人① ぬしらはどこの移民団ですか？

捕虜① 私らは、徳島の移民団です。ヤギと言います。よろしくお願いします。

捕虜② 私はスギノと言います。よろしくお願いします。

村人① 私は長野の移民団で、ヨシザキと言います。よろしくお願いします。

村人② シノミヤです。よろしくお願いします。

ケイタ曾祖父昔 サワグチです。よろしくお願いします。

捕虜① これから、どうなるんですかね…。

ケイタ曾祖父昔 さあ…日本に帰られればいいが…。

ソ連兵 これから全員、日本に帰国する。整列せよ！

捕虜全員 おおー！本当かあー！良かったー！良かったなあ！おお、良かった良かった！これで家族に会えるー！

(列車の中)

捕虜① ヨシザキさん、この列車、南に向かってませんよね…。

村人① うん。太陽の向きと時間から言って、さっきからずっと北に向かっているな。

捕虜② おかしいですねえ…。

(停車して降ろされる)

村人② 兵隊さん、この列車はどこに向かっているんですか？南に向かって、日本に帰るんじゃないんですか？

ソ連兵 いったんハバロフスクに向かい、それから帰国する。

ケイタ曾祖父昔 どうして南には行かないんですか？

ソ連兵 南に行けばアメリカ兵に殺されるぞ。

捕虜① …なるほど…。

(発車する)

ナレーション・ケイタ曾祖父今 ハバロフスクという所には、すでにたくさんの日本人が集められていた。それからワシらは、行き先を告げられることなく、一つの貨車に百人ぐらいぎっしり詰め込まれ、もちろん疲れていても横になることもできず、ずっと立ったまま移動させられたんじゃ。

(列車の中)

村人① スギノさん、この列車、西に進んでねえか？

捕虜② あれは夕日だから、西だな…。

村人② もうずっと西だぞ…。

ケイタ曾祖父昔 どこに連れてかれんだろう…。

捕虜① やっぱり殺されるのかなあ…。

村人① 縁起でもねえ…。

村人② やっぱ殺されんだ、殺されんだ…。

捕虜② 何バカなこと言ってんだ！

村人② 殺されるなんてまっぴらだ！オレは逃げるぞ！

ケイタ曾祖父昔 逃げるって、どうやって？

村人② 殺されるぐらいなら、列車からとび落ちる！

捕虜① こんなところで、この速さで飛び出たって、死ぬのがオチだぞ！

村人② 殺されるぐらいなら、自分から死んでやるんだ！

村人① おい、やめろー！

捕虜② やめろー！シノミヤ！

村人② わーーーーー！

全員 おい！シノミヤ！シノミヤー！！シノミヤー！ウオーー！

ナレーション・ケイタ曾祖父今 列車から飛び降りてしまうヤツもいた。しかし、どこまでも続くあの平原じゃ。生きて帰れる保障はない。どうなってしまったのかのう…。

そのまま、数日が過ぎた日のことじゃった。列車が止まったかと思うと、戸が開けられた。そこには、大きな海が広がっていたんじゃ。

ケイタ曾祖父昔 ここはどこだ？

捕虜① これはもしかして、日本海じゃないか？

村人① そうじゃ、日本海じゃ！やったー！

捕虜全員 こりゃあ日本海じゃー！これで日本に帰れるー！この向こうに、日本があるんじゃー！やったー！ヤッター！

ナレーション・ケイタ曾祖父今 喜びもつかの間じゃった。ワシらは間違っった。日本海じゃのうて、それはバイカル湖じゃった…。そこからまだ西に送られていく者、北に送られていく者もいた。ワシらはそこで、強制労働をさせられたんじゃ。木材の伐採、石炭など鉱物の発掘、線路の敷設、道路作りに発電所作り…。タダ同然で働かされたんじゃ…。

## シーン⑦ 「捕虜」

《労働中・食事時・寝床》

捕虜② まだ十月というのに、寒いのを。

ケイタ曾祖父昔 冬でもないのにこの寒さなら、冬になったらどうなるんじやろうか…。

捕虜① それにしても、何も無いのう…。

村人① 山もなけりゃ、ビルもない。

捕虜② どこまで続いとるんかのう、この平原は…。日本はこの方角かのう？

ケイタ曾祖父昔 ああ、そうだな。

捕虜① 懐かしいのう。

村人① 早う帰りたいのう…。帰って、家族に会いたいなあ…。

ソ連兵 おい！そこの者！何してる！もう日本はないんだ！働く者には食事を与えるが、働かない者には死を与えるぞ！

捕虜② このまま殺されてしまうんかのう…。

(食事時)

捕虜② 今日の晩飯もこれか…。

ケイタ曾祖父昔 これっきりのパンとまずいスープ…。

捕虜① 腹が減りすぎて、腹が痛いわ。

村人① (突然ソ連兵の前に飛び出して正座し)殺せー！もうこのまま胸を打ち抜いてくれー！

捕虜全員 (村人①に駆け寄る)

捕虜② 何を言うんじゃヨシザキ！故郷に家族がおるんじゃろうが…。

ケイタ曾祖父昔 そうじゃ、そうじゃ。こんなトコでくたばってたまるかよ。

ナレーション・ケイタ曾祖父今 それから何十日か後の、寒い朝のことじゃった。

ケイタ曾祖父昔 おい、ヨシザキの様子がおかしいぞ！

捕虜① おい、ヨシザキ！おい！

村人① 故郷に帰って、母さんの、白いご飯と、熱いみそ汁が、食べたいなあ…。

捕虜② おい！しっかりしろ！

全員 しっかりしろ！おい、ヨシザキ！しっかりしろー！！しっかりしろー！！！！

ナレーション・ケイタ曾祖父今 その日だけで、六人の仲間が亡くなった。戦争で消耗した体力に、少ない食事、慣れない寒さ、重労働。疲労による病気や伝染病もあった。多い日には、一日で二十人も仲間で亡くなったこともあった。

(労働中)

ケイタ曾祖父昔 寒いなあ…。

捕虜① 今朝は零下三十度だそうだ。

捕虜② あー、鳥だあ…。

ケイタ曾祖父昔 渡り鳥かなあ…。

捕虜① 南に行くのかなあ…。

捕虜② オレたちにも羽根があつたらなあ…。

ケイタ曾祖父昔 会いてえなー。みんなに…。

捕虜① 帰ってえなあー、日本に…。

捕虜② (急に走りだしミミズを捕まえる)オレはミミズだって食うぞ！生きてる肉だ！(のみ込んで)

捕虜全員 (哀れなまなざしを向ける)

捕虜② 生きて、生きて、生き抜いて、国に残した一人娘に会うんだ！絶対に娘に会うんだー！(泣き崩れる)

ケイタ曾祖父今 いわゆる、シベリア抑留というやつじゃ。あの極寒の地で、約六万人の仲間が亡くなった。ワシらは、運よく二年後に帰国することができたが、無念にも北の大地でそのままになった仲間がいっぱいおる。今も北の大地の、土の中で眠ったままの仲間がのう…。

ケイタ祖父今 お父さんにもそんなことがあったんですか…。

ケイタ曾祖父今 誰にも言ってなかったからなあ。言いたくも、思い出したくもない過去じゃ。じゃがのう、このままじゃ、誰も知らんままで消えてしまいそうでのう…。そういうお前も、苦労したんじゃろうが。ひいばあさんが生きてたときに、仏壇の前でよく手を合わせて泣きよったわ。

ケイタ祖父今 ワシは小さかったから、よく覚えとらんけど、大変だったっていうことは、忘れとらん。六十年経った今でも、まだ夢に出てくるんじゃ…。

## シーン⑧ 「無念の生還」

《引き揚げ道中》

ナレーション・ケイタ祖父今 ワシが気がついたときには、母さんは父さんと別れ、持てるだけの荷物を持って、他の移民団の人たちと五十km先のハルビンに向かっておった。当時三才だったワシは、母さんの手に引かれ、生まれたばかりの妹・テルコは、母さんの背中に負われての長旅じゃった…。

(道中歩きながら)

ケイタ曾祖母 アキラ、大丈夫？

ケイタ祖父昔 うん。テルコは？

ケイタ曾祖母 テルちゃんはねー、どうかねー。

テルコ オギャー！オギャー！オギャー！

ケイタ曾祖母 お腹がすいてるのかなー？

ケイタ祖父昔 テルコ、我慢じゃよ！

テルコ オギャー！オギャー！

ケイタ曾祖母 すみませんねえ…。

移民60① いいですよ。子は宝って言いますからね。かわいい赤ちゃんだこと。ちょっと構いませんか。

ケイタ曾祖母 どうぞ。(テルコを手渡す)

移民60① おー、高い高いー！高い高いー！

テルコ (笑う)

移民35② うちもね、これくらいの子がいたんですけど…、生まれてすぐの頃に病気を患いまして…だから今は、この上の子一人で…。

ケイタ曾祖母 そうですか…お気の毒に…。

移民10③ 母さん、お腹減った…。

移民35② これこれ、みなさんの前で失礼でしょ。

ケイタ曾祖母 いいですよ。みんな同じですからね…。これ(と言って、風呂敷の中からトウモロコシを一本取り出す)、どうぞ。

移民35② いえ、こんな貴重なもの、いいです。

ケイタ曾祖母 いいですよ。ここまでの道中にあった畑に埋もれてたのを見つけた物ですから。どうぞ、お食べなさい。

移民10③ ありがとう。

移民35② スミマセン。本当にありがとうございます。

移民10③ (トウモロコシを半分に折って)はい。

ケイタ祖父昔 (受け取って)ありがとう。

ケイタ曾祖母 あら、ありがとうね。

(暗転)

ナレーション・ケイタ祖父今 ときには、野宿しているワシらを、銃を持って襲ってくる中国人もおった。

(銃声の音)

ケイタ曾祖母 アキラ！こっちよ！こっちー！

移民60①・移民35② (打たれる)うっ！

(銃声が消えてから)

ケイタ曾祖母 大丈夫ですか？もし！もし！！

移民35② スミマセン。娘のことを、お願い、しま、す…。

ケイタ曾祖母 しっかり！しっかりー！

(暗転)

ナレーション・ケイタ祖父今 それからは、その女の子も加わって、ハルビンから、新京、奉天を目指し、何とか港まで出て日本に帰ろうとしたんじゃ…。

(道中)

ケイタ曾祖母 テルコ、元気？大丈夫？  
ケイタ祖父昔 お母さん、どうしたの？  
ケイタ曾祖母 テルコの元気がないのよ…。  
ケイタ祖父昔 テルコ、大丈夫？  
ケイタ曾祖母 あら、ひどい熱。  
ケイタ祖父昔 お薬は？  
ケイタ曾祖母 (首を振る)  
ケイタ祖父昔 お医者さんに診てもらわないと。  
ケイタ曾祖母 …そうね…。とにかく、急ぎましょう…。

(道中歩き始める・暗転)

ケイタ曾祖母 テルコ？テルコ！テルコー！  
ケイタ祖父昔 どうしたの？  
ケイタ曾祖母 テルコー！テルコーー！！  
(泣き崩れる)

ケイタ祖父今 今思えば、母さんは、初めからあきらめていたのかもしれない。物はない、薬もない、金もなけりゃ、医者もいない。そんな中で、病気を患った赤ちゃんのテルコが助かるわけがなかったんじゃない…。その後、母さんとワシは、無事に帰国船に乗ることができて、日本に帰って来れたが、預かった女の子は…今もどうしていることやら…。

ケイタ って、どういうこと？

ケイタ祖父今 途中ではぐれてしまってな。そんな形で中国に残って、中国人に育てられた子どももたくさんいたんじゃない。それを、中国残留日本人孤児といってな、政府が探し始めたのが、二十年くらい前になってからかのう…。

ケイタ母 っていうことは、お父さんも、もしかしたら、日本人孤児になってたかもしれなかったってこと？

ケイタ曾祖父今 そういうことじゃ。

ケイタ祖父今 テルコじゃなく、ワシの方が死んでたかもしれん。そうなれば、お前も、ケイタも、この世にはいなかったということじゃ。

ケイタ祖母 ひいおばあちゃんが毎朝仏壇に向かってたのは、テルコさんのことがあったからなのね…。

ケイタ曾祖父今 満州へ行くときは、国策と言って、バンザーイ！バンザーイ！と村を挙げて見送られたものの、いざソ連と戦争となったら、ワシらはあの北の果てに見捨てられたんじゃないよ。日本はワシらを満州に送り込むだけ送り込んで、最後にはハシゴを外すようにして、大陸に捨て去ったんじゃない…。戦争でいつも損をするのは、下の兵隊さんや、下々のワシらじゃよ…。

## シーン⑨ 「2つの扉」

《それぞれの部屋》

ケイタ 「アキへ オレ、もう言葉になんないよ。戦争って、本当にヒドイや。ひいじいちゃんはシベリアに連れてかれて、強制労働させられてたって。じいちゃんはひいばあちゃんに連れられて、命からがら帰国したって。途中で亡くなって、中国で埋葬した妹もいたって。オレそんなこと、全然聞いてなかったよ。マジびっくりしたし、ひいじいちゃんやひいばあちゃんのこと、ホントスゲーって思った」

アキ 「そうなんだー。私もビックリ。だって、そんなこと全然知らなかったんだもん」

ケイタ 「戦争って言ったら、ヒロシマやナガサキ、オキナワのことが一番に出てきたから、中国やソ連のことなんて、全然意識してなかった」

アキ 「私も一緒。ちょっとショック。家族から聞いてたことが、戦争のすべてだって、思い違っていた」

ケイタ 「オレも、アキから聞いたことしか頭になかったから。ひいじいちゃんが最後に、『日本は、中国やアジアの国々に侵略し、大きな被害を与えた加害者としての責任を忘れてはいけ

ない。戦争に勝者も敗者もない。罪のない一般市民が不幸のどん底に追いやられるのが戦争。憎むべきは戦争そのものなんだ』って言ってた。オキナワやヒロシマ、ナガサキは、どちらかといえば被害者の面だけど、加害者としての戦争も同等に見ていけなくちゃいけないって思ったよ」

ナレーション・ケイタ オレとアキは、戦争について、メールで語り合った。こんな風になるなんて、思いもよらなかった。けど、戦争というカギが、互いの中にある扉を開けた。

## シーン⑩ 「それぞれの場所」

《中友の教室》

中友指導員 さて、今日の中友は何について話し合うで？

アキ 戦争！

中友同級生① どしたん、アキ！

アキ うん？うーん…。

中友同級生② 急にえらい張り切ってえー。

アキ うん…。

中友指導員 アキ、どしたん？何かあったん？

アキ うん。私の家族な、戦争に行っちゃって亡くなったり、空襲で亡くなったり。

中友同級生① へー、ほうなん？

アキ うん。ビルマやオキナワでひいじいちゃんのお兄さん亡くなるとんやあって。それに、ひいじいちゃんのお父さんは徳島大空襲のときに亡くなるとるって。

中友同級生② 先生、ビルマってどこ？

中友指導員 ビルマってな、インドシナ半島。

中友同級生③ インドシナ半島って？

中友指導員 うーん…中国よりもっと南。

中友同級生① ふーん。日本で、ほんなところまで戦争しに行っちゃったん？

中友指導員 ほうやなあ。アキの親戚の人はほこで亡くなったん？

アキ らしい。

中友指導員 確かに、徳島からビルマ戦線に行っちゃって、亡くなった人が多いっていうんは聞いたことあるなあ。ほれに、眉山の上にあるんも、ビルマ戦没者慰霊塔って言よったんちゃうかなあ。

中友同級生② あのアイスクリームみたいなヤツ？

中友指導員 そうそう。あれはパゴダって言うて、ビルマとかで言うお寺の形なんよ。

中友生全員 ふう～ん。

アキ けどな、ほれだけでなしに、中国でも戦争が起きて、シベリアにまで連れて行かれた人もおるんやあって。

中友同級生③ へー、ほうなん？

中友指導員 アキ、えらい詳しいで。どしたん？

アキ ちょっと知り合いに聞いて…。

中友同級生① 知り合いって…また、あのケイタとかいう人ちゃうん？

アキ え～…。

中友同級生② 先生、アキな、県外にメル友おるんじよ。

中友指導員 アキ、ほうなん？

アキ うん…。ほなけど、いろんなこと話していい人なんよ。高校生なんやけど、戦争について語り合いよんよ。

中友指導員 何でほなあになつたん？

アキ 修学旅行先がお互いにヒロシマっていうんで始まったんよ。

中友指導員 ほな、中国やシベリアっていうんは、その高校生の話？

アキ うん。そうらしい。ひいおじいちゃんとひいおばあちゃんが満州に行っちゃって、そこからひいおじいちゃんだけソ連にシベリアまで連れて行かれて働かされたんやと。ほんでひいおばあちゃんはおじいちゃん連れて日本に帰ってきたって。もし帰って来れてなかったら、中国残留日本人孤児になつたかもしれない…。

中友指導員 あるところにはあるもんなんやなあ、そういう話…。

中友同級生③ うちも、何か関わりがあるのかなあ？

中友指導員 ほらあるよ。先生やってえ何かあるかもしれん。あの戦争にかかわらんと来た人は、誰一人おらんのかもしれんよ…。

### 《高校の教室》

サッカー仲間① なあ、次の授業の予習してる？

サッカー仲間② いや。あっ！そういや、テストつつってたっけ？

サッカー仲間① そう、それだよ。ケイタは？おい！ケイタ！

ケイタ あん？

サッカー仲間② あん？じゃねえよ。なにボーッとしてんだよ。

ケイタ ボーッとなんかしてねえよ。

サッカー仲間① してんじゃねえかよ。

サッカー仲間② ケイタ、テスト勉強やってんの？

ケイタ 何それ？

サッカー仲間① やっぱ、ボーッとしてんじゃん。

ケイタ …お前らさあ、勉強してどうすんの？

サッカー仲間② どうすんの？って、居残りになってもいいのかよ。

ケイタ いや、そういうんじゃないで…。

サッカー仲間① じゃあ、どういうんだよ。

ケイタ 今やってる勉強って、ホントの勉強かなって…。

サッカー仲間② ホントもウソもあるかよ。受かんなきや意味ねえんだよ。

ケイタ それだけのためにする勉強って、何か違うねえ？

サッカー仲間① 寝言は寝て言え。

ケイタ テストや受験のために勉強してる訳じゃねえんじゃないかな…。

サッカー仲間② はいはい。一生寝ぼけたこと言ってる。

ケイタ もっとさあ、生きるためとか、未来のためとか、人類のためにやるもんじゃねえかなー？

サッカー仲間① テスト受かんねえと未来もないと思うんだけど、ケ・イ・タ・く・ん！

ケイタ いや、だからさあ、知識を詰め込むだけの勉強じゃなくて、もっと事実というか、真実を知る勉強をしないとイケないような気がすんだよ。

サッカー仲間② 何だよ。オレらが今やってることが間違ってるって言うのかよー。

ケイタ いや、そんなこと言ってるんじゃないでー。

サッカー仲間① まあまあ、ケイタくん、きみのご託は分かったから、ケイタくんも一緒にお勉強しようねー。

ケイタ うーん…。

ナレーション・ケイタ 目の前のテストや受験が大切じゃないとは言わないが、そのための勉強が、形だけのものになってるような錯覚を覚えた。本当に学ばなくちゃいけない勉強があるような気がした。それを抜きに勉強してるから、何かが狂ってるような気がした。

その点、アキは、近い存在に思えた。遠くにいても、同級じゃなくても、異性でも、気持ちのうえで近い存在に思えた。会ったことなくがなくても、思いの通じた、いろんなことを何でも話せる、同じものを視てる仲間のような、そんな存在に思えた。

## シーン⑪ 「出会い」

### 《ヒロシマの宿舎》

ナレーション・ケイタ それから1年間、オレとアキとのメール交換は、ずっと続いた。そして高2になったオレと、中2のアキの修学旅行は、偶然にも、同じ日取り、同じ宿舎で、ヒロシマに滞在することになった。

そこで、オレと、アキは、初めて、出会った。

to be continued